

実践団体情報

記入日	2020年1月15日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	NPO法人小網代野外活動調整会議
代表者名	岸 由二
プラン全体のタイトル	小網代の森で「流域思考」による温暖化豪雨時代の防災を考える
電話番号	090-8006-2843
メールアドレス	moshapiko@gmail.com
実践団体の説明	神奈川県三浦市小網代の森で「流域思考」による環境保全や生物多様性の創出に取り組んでいる。同時に市民に対する環境教育や、防災教育も実施している。
所属メンバー	石川紫穂(総務理事)柳瀬博一(理事)矢部和弘(理事) 関本昇(スタッフ)根本千早(スタッフ)飯田治矢(スタッフ) 石川友莉(学生)佐藤翔祐(学生)柴田尚(学生)
活動地域	神奈川県三浦市小網代地区
活動開始時期・結成時期	1998年5月
過去の活動履歴・受賞歴	2016年度生物多様性アクション大賞審査員特別賞

プラン全体の概要	<p>小網代の森・小網代の森インフォメーションスペース・地域のコミュニティを利用して、「流域思考」で水土砂災害を考え身につけるための様々なプログラムを実践する。</p> <p>①地域での防災ワークショップ 防災を考える入口としての取り組み。平日の日中に実施することにより、特に高齢者や女性を中心にした防災の入り口を学ぶ。このワークショップに参加することで、勉強会や講演会への参加へとステップアップさせていく。</p> <p>②イベントの実施 だれでも参加出来、子どもたちにも防災に関心を持ってもらうためのイベント。家族で参加することにより、保護者はさらに専門的な知識を身に着けるための勉強会や講演会への参加を意識してもらう。イベントで楽しく防災を学</p>
----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>び、万仇ことを家庭で実践することを目指す。</p> <p>③地域に特化した勉強会の実施</p> <p>三浦という地域・地形・インフラ整備などを視野に入れ、三浦で大雨が降ったらどうなるかを学び、個々の対応を考え意見交換する勉強会。一方的に聞くのではなく参加者が意見交換することや、講師への質疑応答によりより実践的な知識を身につける。</p> <p>④講演会の実施</p> <p>流域とは何か。温暖化豪雨にどのように対応するのかを学ぶ講演会。小網代の森での過去の豪雨被害の事例や、国内の事例を参照しながら、水土砂災害は流域で起こることを学び、流域で水防災を考える必要性について専門的な講演を聞く。環境保全も防災も流域で取り組んでいる小網代の森の今を知ってもらう。</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	年間の活動計画立案		
5月			
6月		材料準備・資料準備	防災ポーチを作ろうw s (地域店舗で実施)
7月			
8月			
9月		材料準備・会場準備	防災ポーチを作ろうイベント (インフォメーション・三浦市民交流センターで実施)
10月		会場準備	市民勉強会 三浦市における水防災 (三浦市民交流センターで実施)
11月		会場準備・資料準備	講演会 (インフォメーションで実施)
12月		材料準備・資料準備	防災ポーチを作ろうw s (地域店舗で実施)
1月			
2月			
3月			

プラン全体の反省点・課題・感想	9月の台風被害により、秋に実施予定の小網代の森防災ウォーキングが実施できなかった。実施した活動についてはどれも関心が高く参加者も多かった、市民の水防災に対する関心は高まっていると実感した。特に参加した子どもたちが、自分で学び理解したことを家族や学校で伝えることが出来たという報告を複数受けており、子どもたちへの防災教育の充実という課題に来年度は取り組みたい。
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>今後の活動予定</p>	<p>来年度もさらに内容を深め、ワークショップ・イベント講演会の実施に加え、防災ウォーキングも実施していきたい。 行政や社協、学校や幼稚園からも反応が良く、来年度は連携しての活動も計画している。</p>
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

実践したプランの内容と成果

記入日	2020年1月16日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	NPO法人小網代野外活動調整会議
実践番号	1
タイトル	防災ポーチを作ろう
実践担当者のお名前	石川紫穂

実践にかかった金額	1万円未満
実践の準備にかかった時間	1日
実践活動を実施した日時	2019年6月15日10時30分～12時30分
実践の所要時間	2時間
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	保護者/PTA・地域住民・社会人/一般・女性・高齢者
防災教育の対象者の人数	約11人
実践を行った都道府県と市区町村	神奈川県三浦市
実践を行った具体的な場所	野菜のヒカリ工(店舗)

達成目標	日常的に防災を考えることの大切さを理解する	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	少し

実践内容・方法	<p>私たちが日々直面する自然災害が増えていることに注意を向け災害はいつ起こるのか分からないために日常的な備えが必要であることをお話する。家庭でどんな備えが必要かを簡単に説明したあと、外出時に被災する可能性について話す。出かけているときに被災したらどうするかを一緒に考え、防災ポーチが役に立つことを伝える。防災ポーチに何を入れるかは個々の人によって違うことを説明し、共通に必要なものを入れたらあとは個々で必要なものを入れておくことなどを伝える。そしてみんなで防災ポーチに必要なものを入れて作り上げていく。自分に必要なものをメモして帰りに補充しておくことをすすめる。</p> <p>また家族と一緒に防災ポーチを作り、ばらばらに被災した時の集合場所などの確認をすることの大切さを伝える。日ごろから話し合っておくことがいざというとき役に立つことを理解してもらう。</p> <p>最後に新聞紙でスリッパを作り、被災した時に役立つグッズとして覚えてもらう。</p>	
得られた成果	<p>防災というワードに興味を持ってもらうことを目的としたワークショップだったが、外出時に被災したらということは考えていなかったのですごく役に立ったという感想をいただいた。家族で防災ポーチを作ったり、役所にハザードマップをもらいに行ったという報告も受けた。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	<p>地域の高齢者の参加が多かったので、専門用語ではなく、できるだけわかりやすい言葉を使って話す工夫をした。またパワーポイントではなく画用紙にカギとなるワードを書いて、話の途中で見せるようにした。一つでもいいから覚えて帰って下さいねという形でお話をした。</p>	

記入日	2019年12月17日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	NPO法人小網代野外活動調整会議
実践番号	2
タイトル	「防災ポーチを作ろう」イベント実施
実践担当者のお名前	石川紫穂

実践にかかった金額	10万円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	2019年9月7日11時～2019年9月8日15時
実践の所要時間	4時間×2日=8時間
実践の運営側で動いた人の人数	延べ18人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児・小学生(低学年)・小学生(高学年)・中学生・高校生・大学生・教職員/保育士等・保護者/PTA・地域住民・社会人/一般・女性・高齢者
防災教育の対象者の人数	約100人
実践を行った都道府県と市区町村	神奈川県三浦市
実践を行った具体的な場所	小網代の森インフォメーションスペース 三浦市市民交流センター会議室

達成目標	三浦市民のみなさんの防災意識を高める	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法

以下の4つのプログラムを実施し、順番にすべてのプログラムを体験できるよう誘導した。

①防災ポーチを作ろう

外出時に被災した時、持っていたら役に立つものを入れていつも持ち歩くのが防災ポーチ。自分にとって何が必要かを考えながら、とりあえず入れておくと役に立つものを入れて、防災ポーチを作りました。

「持ち歩く防災」「0次避難」という考え方を学び、家族と離れているときに被災したらどうするかを子どもたちにも考えてもらいました。

防災ポーチを持ち歩くことで、日ごろから防災意識を高めることができるので、自分が持ち歩くバックに必ず防災ポーチを入れておくことの大切さを学びました。



どの災害かによって非難する場所は違うので、日ごろから自分の家の周りの地形や、避難場所の確認をしておくことの重要性を考えました。また、家族がバラバラの状態被災した時に、どこに集まるのか、避難場所はどこかを、必ず家族全員で確認しておくことが必要であると学びました。



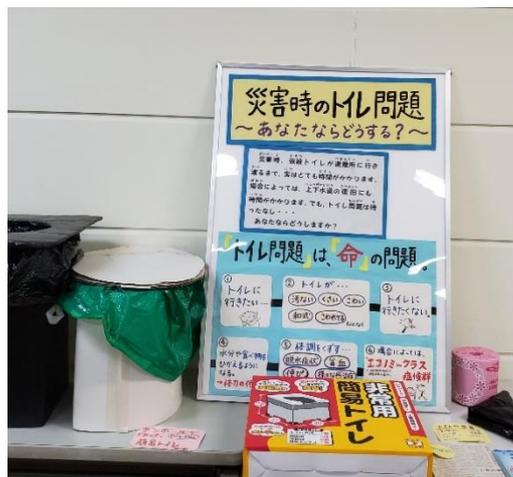
②災害時の応急手当

被災時にけがや骨折してしまったとき、身近にあるもので応急手当をする方法を学びました。新聞紙とストッキングやネクタイとスーパーの袋を使って骨折の応急処置をする方法を、子どもたちに体験してもらいました。



③被災した時のトイレのお話

災害でトイレが使えなくなったとき、どのようなもので代用できるのかを考えました。また洋式水洗トイレになれている子どもたちが、いざというときトイレを我慢せずだ代用トイレでも用を足せるよう、自宅で代用トイレを作ってみることをすすめました。トイレの問題は命にかかわることを理解してもらいました。



④新聞紙でスリッパを作ろう

新聞紙で作るスリッパはどのように役に立つのかを考えて作りました。未就学の子どもたちも自分で折っていました。

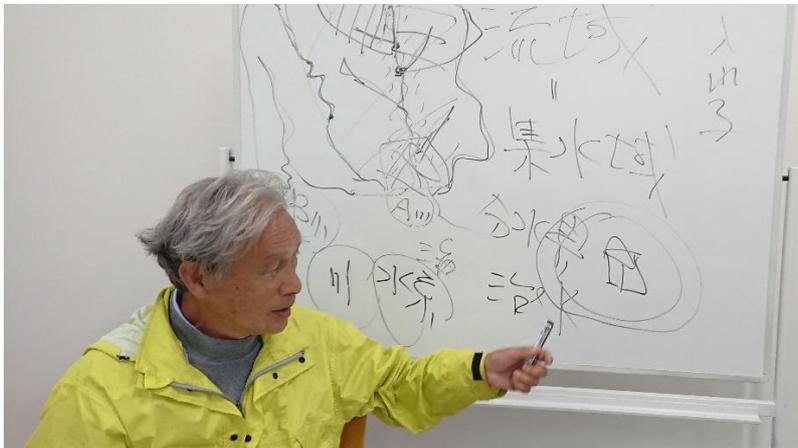


得られた成果	子どもからお年寄りまでたくさんの参加者に来ていただくことが出来た。防災ポーチや新聞紙のスリッパなど持ち帰ることのできるものがあつたので、記憶に残すことが出来た。2日続けて参加してくれた家族もいて、市民の防災意識を高めることが出来たと思う。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫	参加者が集中する時間帯があり、もう少しスタッフが必要かもしれないと思った。同時に閑散としている時間帯もありそこが把握できれば効率よく回せると思った。子どもたちが飽きないうちにすべてのプログラムを回ってもらうため、分かりやすい説明と各ブースを短時間で終わらせるよう心掛けた。反対にもっと詳しく聞きたいという人には別のテーブルで話ができるようにした。防災ポーチにはカニさん折り紙を入れ、可愛くすることで興味を持ってもらうように工夫した。	

記入日	2020年1月16日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	NPO法人小網代野外活動調整会議
実践番号	3
タイトル	勉強会 三浦市における水防災
実践担当者のお名前	石川紫穂

実践にかかった金額	3万円未満
実践の準備にかかった時間	1日
実践活動を実施した日時	2019年10月20日16時00分～18時30分
実践の所要時間	2時間30分
実践の運営側で動いた人の人数	2人
防災教育の対象者の属性	小学生(低学年)・小学生(高学年)・高校生・大学生・保護者/PTA・地域住民・社会人/一般・女性・高齢者
防災教育の対象者の人数	約28人
実践を行った都道府県と市区町村	神奈川県三浦市
実践を行った具体的な場所	三浦市市民交流センター

達成目標	三浦市の地形を把握し、大雨の時の水の流れを流域で理解する	
どの力を身につけよう としましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	少し

<p>実践内容・方法</p>	<p>市民勉強会として実施。流域の定義や三浦市の地形の説明。大雨が降ったらどこにどんなことが起きるのかを過去の事例も含め解説。三浦市内での事例を深く掘り下げ、どの地域にどんな被害が出るかを想定し意見交換をした。最後は講師への質疑応答。</p> 	
<p>得られた成果</p>	<p>参加者のみなさんが個々のご自宅周辺の状況を把握し、水防災についての実際的な知識を得ることが出来た。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>思ったよりも参加者が多く、個々の対応するために時間が足りなかった。勉強会ということで参加者からの発言や意見交換の時間、質疑応答の時間を多くとった。</p>	

記入日	2020年1月16日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	NPO法人小網代野外活動調整会議
実践番号	4
タイトル	講演会 「小網代の森と流域で考える温暖化豪雨時代の水防災」
実践担当者のお名前	石川紫穂

実践にかかった金額	5万円未満
実践の準備にかかった時間	2日
実践活動を実施した日時	2019年11月17日13時30分～15時30分
実践の所要時間	2時間
実践の運営側で動いた人の人数	5人
防災教育の対象者の属性	高校生・大学生・保護者/PTA・地域住民・社会人/一般・女性・高齢者
防災教育の対象者の人数	約48人
実践を行った都道府県と市区町村	神奈川県三浦市
実践を行った具体的な場所	小網代の森インフォメーションスペース

達成目標	流域を理解し、温暖化豪雨に対応する知識を身に着ける	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり

<p>実践内容・方法</p>	<p>流域とは何か。温暖化で雨はどのように変わっているのか。 水土砂災害が起こりやすい地形は？流域で防災を考えるとはどういうことか。などについて、一時間半の講演を聞き、最後に質疑応答。 かなり専門的な話もありこれからの大雨や洪水にどのように備えるかをしっかりと考える機会になりました。</p> 	
<p>得られた成果</p>	<p>流域について理解したうえで、温暖化豪雨に対する個々の対応についてしっかりと学ぶことが出来た。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>かなり専門的なお話もある中で、地域の人にどう分かりやすく伝えるかは大きな課題。かなり難しい話を聞きたいという人と、分かりやすい話を聞きたいという人に分けての実施も考えていかななくてはいけないと感じた。 オープンスペースで実施することにより、当日興味を持って参加して下さった方が数名いらした。</p>	

記入日	2020年1月17日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	NPO法人小網代野外活動調整会議
実践番号	5
タイトル	防災ポーチを作ろう
実践担当者のお名前	石川紫穂

実践にかかった金額	1万円未満
実践の準備にかかった時間	1日
実践活動を実施した日時	2019年12月20日10時30分～12時30分
実践の所要時間	2時間
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	保護者/PTA・地域住民・社会人/一般・女性・高齢者
防災教育の対象者の人数	約13人
実践を行った都道府県と市区町村	神奈川県三浦市
実践を行った具体的な場所	野菜のヒカリエ(店舗)

達成目標	日常的に防災を考えることの大切さを理解する	
どの力を身につけよう としましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	少し

実践内容・方法	<p>私たちが日々直面する自然災害が増えていることに注意を向け災害はいつ起こるのか分からないために日常的な備えが必要であることをお話する。家庭でどんな備えが必要かを簡単に説明したあと、外出時に被災する可能性について話す。出かけているときに被災したらどうするかを一緒に考え、防災ポーチが役に立つことを伝える。防災ポーチに何を入れるかは個々の人によって違うことを説明し、共通に必要なものを入れたらあとは個々で必要なものを入れておくことなどを伝える。そしてみんなで防災ポーチに必要なものを入れて作り上げていく。自分に必要なものをメモして帰りに補充しておくことをすすめる。</p> <p>また家族と一緒に防災ポーチを作り、ばらばらに被災した時の集合場所などの確認をすることの大切さを伝える。日ごろから話し合っておくことがいざというとき役に立つことを理解してもらう。</p> <p>最後に新聞紙でスリッパを作り、被災した時に役立つグッズとして覚えてもらう。</p> <p>6月実施と同じものを再度実施。</p>	
得られた成果	<p>防災というワードに興味を持ってもらうことを目的としたワークショップだったが、外出時に被災したらということは考えていなかったのですごく役に立ったという感想をいただいた。前回参加して下さった方が呼びかけてくださり、地域の老人会で参加して下さった。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫	<p>地域の高齢者の参加が多かったので、専門用語ではなく、できるだけわかりやすい言葉を使って話す工夫をした。またパワーポイントではなく</p> <p>画用紙にカギとなるワードを書いて、話の途中で見せるようにした。</p> <p>一つでもいいから覚えて帰って下さいねという形でお話をした。</p>	